第6章 津軽植物の会が全国的に注目されている

50年目を記念して開催した企画展

昭和39年1月1日に発足し、現在60年目に入っているが、発足時に決めた事が未だに守られている。それは“手づくり会誌(B5判8頁)を毎月休まず発行する”と“野外調査会を毎月休まず開催する”だ。会誌は通巻715号発行済、野外調査会は雨風雪でも、一人だけの参加でも実施し、60年間継続している。会誌内容は地域植物に関する全ての分野を許容しているので内容は多彩。特に重視しているのは“地域植物の事実の記録”で、同じ神社境内の植物相が40年・50年に渡って毎年記録されている。そのためには、植物同定の精度が百パーセントでなければならないので、野外観察会では“津植方式(木村方式)”を採用し、参加者全員が現地の実物を通して、識別ポイントを学んでいる。

過去50年の“手づくり会誌”から
各年12ヶ月分のトピックスのみ集約した年報。

VISITOR TOPICS

白神山地ビジターセンターでは、世界自然遺産登録30周年に関する取り組みのシンボルとして、ロゴマークを作成しました！「30」の数字と組み合わせている鳥は白神山地の多様な生態系を象徴する鳥・クマゲラで、赤い帽子と黄色いくちばしがチャームポイントです。また、「白神山地」の漢字をよくご覧いただくと、中には星があしらわれています。これは「白神山地の夜空＝人工物が無い、漆黒の夜空」に輝く美しい星をイメージしています。このロゴマークを2023年の各種イベントや広報物などあらゆるシーンで使用し、白神山地の節目を盛り上げます。また、ロゴマークはどなたでも使用可能です。白神山地を盛り上げるために何かを実施する際はぜひご活用ください。
詳しくは当センターホームページをご参照ください！

ロゴマークが入ったTシャツを
スタッフみんなで着用しています！

ファイルやティッシュも作りました。
資料配布や記念品として活用します！

Anniversary 30th
世界自然遺産
白神山地

白神山地ビジターセンター
〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1
TEL.0172-85-2810　FAX.0172-85-2833
HP https://www.shirakami-visitor.jp/

ホームページ　ツイッター　フェイスブック　インスタグラム

白神山地ビジターセンターだより
SHIRAKAMI

No. 44
2023夏号

白神山地の植物を調べて70年

津軽植物の会会長 木村　啓

第1章 18歳で白神山地奥地の仁瀬分校教師となる

新制高校(高校時代3年間は、青森県一番の生物研究者である小笠原馨先生が顧問の生物部に所属)を卒業した18歳のとき、白神山地奥地(笹内川上流部)の戦後入植開拓部落に在る岩崎小学校仁瀬(にぜ)分校の教師となる。児童生徒8名(小学生6名、中学生2名)、教師一人という日本一の僻地校。このとき、牧野富太郎先生に手紙を出して、植物学の教えを乞い、大いに励まされた。以来、牧野先生を師と仰ぎ、地域植物の調査研究に励んでいる。牧野先生が93歳で亡くなってからは、先生の流れを汲む“日本植物友の会(会長:東大教授本田正次博士、副会長兼事務局長:万葉植物学者松田修博士)”に入会し、頻繁に上京して会長・副会長にお会いし植物学を学んだ。更に、東京在住で友の会会員である多くの植物研究者と長年交流を続けている。中でも、地理学者で植物研究者の五日市高校長の坂上隆一先生、植物語源研究学者の深津正先生、植物教育学者で都立小学校長の牧野晩成先生とは、特別交流が深まり、青森県に何度も来てもらい、私は先生方のお宅に度々泊めてもらった。

第2章 白神岳登山口の黒崎小学校に異動

仁瀬分校勤務は、余りにも厳しいので、教師は“一年交代”であったが、私は2年間勤務した。3年目に、白神岳登山口の黒崎小学校に異動し、白神岳山頂へ毎週何度か登り“山頂植物の調査”を続けた。当時は、白神岳の植物相(フロラ)は未知で、登山をする度に、見分けに迷う個体の種名を明らかにして行った。リンドウ科のリンドウ属はエゾオヤマリンドウ。フウロソウ科のフウロソウ属はチシマフウロウ。キク科のメタカラコウ属はトウゲブキ。ユリ科のシュロソウ属はオオシュロソウ。ツツジ科のツツジ属はハクサンシャクナゲ。イネ科のヤマアワ属はムツノガリヤス。・・・・・・・・というように。どうしても判定のできないものは、東京大学の原寛先生へ届けて、同定をお願いした。青森県初記録となったヒメナツトウダイ(姫夏灯台)《トウダイグサ科》やウチワマンネンスギ(団扇万年杉)《ヒカゲノカズラ科》は、その例である。

ヒメナツトウダイ(トウダイグサ科)

第3章 津軽植物の会を立ち上げて白神山地植物調査を継続

鰺ヶ沢町の東鳴沢小学校勤務時代に、東京教育大学理学部植物学科新卒の木造高校生物教師と出会った。彼は葛谷孝先生で、土曜日曜に生物クラブの生徒を連れ、岩木山植物調査の途中、休憩のため東鳴沢小学校に立ち寄っていた。学校住宅に入っていた中村次郎校長が葛谷先生一行を職員室に招き入れ、本校にも植物好きの教師が居ると、話したという。その後、葛谷先生と逢ったところ、私と同年齢で、カヤツリグサ属の分類専攻であることが分かった。彼も独身であったので、放課後には互いの宿を訪れ、朝まで植物分類学について話し合った。この出会いが契機となり、昭和39年(1964年)1月1日に津軽植物の会を発足させた。会員には、親しい植物仲間で小中高の教員7名になって貰った。会発足3ケ月後の4月、私は白神山地の麓である深浦小学校へ転勤し、白神山地の植物調査を更に深めた。

第4章 東京大学が白神岳と向白神岳の植物調査をする

深浦小学校に8年間勤務。その後、五所川原市教育委員会に異動し理科教育担当の指導主事となり、植物教育の普及に努めた。葛谷孝先生は、新設された県立理科教育センター生物担当指導主事となり、青森県全域の植物学研究発展に寄与。五所川原市教委指導主事時代に、東京大学原寛植物研究室のメンバーを招き、地域植物の調査研究に務め、市内の長富浮島で青森県初記録となるホロムイイチゴ群落を発見し、五所川原市天然記念物指定第一号とした。東大メンバーの宿泊基地は、五所川原市立国連青少年の家で、何週間も滞在した。このころ、原寛研究室では“ヒマラヤ植物調査”が企画され、東京ではその準備に大忙しであったという。そんな中にあって、“白神岳及び向白神岳植物調査”が原研究室の大場秀章先生をリーダーとして4泊5日で実施された。メンバーは大場秀章、邑田仁、門田裕一、立石庸一の4名で、鰺ヶ沢営林署の竹越恵蔵と五所川原市教委の木村啓が現地案内と山頂テント宿泊の世話をした。当時、白神岳から向白神岳へは、狭く荒れた歩道があり、一日で往復ができた。調査結果は、印刷されて東京大学の報告書として残っている。この調査で、秋田県の海岸地帯に記録されている“ノハラクサフジ”を白神岳～向白神岳への道で発見し、分布上の新記録とし、白神山地植物分布の大きな話題となった。

第5章 竹越恵蔵さんが向白神岳で採集した植物

(津軽植物の会会報第8巻第10号より)

昭和46年(1971年)9月9日夜、青森県ではトップレベルの登山家として知られる竹越恵蔵さんが私の家をたずねてくれた。昭和46年(1971年)7月18日に向白神岳で採集した植物と数多くの植物カラー写真を持参して、名前を確認してくださいという。私は喜んでその植物とカラー写真を見せていただいたが、私が未だ採集していない種類も混じっており心がおどった。先ず、ミヤマハナシノブの大群生のカラー写真には驚いた。私は未だミヤマハナシノブが生えているという“静御前”へは足を運んでいないのでミヤマハナシノブの生育状況をも口伝でより知らなかった。昨年、文化庁の調査の折りに竹越恵蔵さんと井上守さんが同所から採取した時は大群ではなかったというのであったので、今回の竹越さんの写真を見て驚いたのである。このミヤマハナシノブの大群生は昨年の地点ではなく、それより下ったところであるという。学術標本として持参していただいたハナシノブを見て、ミヤマハナシノブであると判断した。シコタンソウの群も見事であった。これも標本としてある。チシマフウロも“静御前”で採集している。アオモリマンテマも“静御前”で見つけ写真と標本にしてある。これは群落ではなく株となって点々と生育している。ミヤママンネングサも採集している。これは向白神岳の手前の峰中の追良瀬川寄りの岩壁上からの採集である。ウゴマンテマも採集している。これは静御殿ではなく別の地点である。昨年採集の分と合わせて、竹越恵蔵さんが向白神岳で採集した植物を次にあげておく。①リシリシノブ(イノモトソウ科)②シコタンソウ(ユキノシタ科)③ミヤマハナシノブ(ハナシノブ科)④アオモリマンテマ(ナデシコ科)⑤ミヤママンネングサ(ベンケイソウ科)⑥オオタカネバラ(ばら科)⑦ミヤマハンショウヅル(キンポウゲ科)⑧ウゴマンテマ(ナデシコ科)⑨ツガルミセバヤ(ベンケイソウ科)⑩チシマフウロ(フウロソウ科)その他、私には同定することができない種類がいくつもあった。時間をかけて調べて、別の機会に発表したいと思う。以上の標本は筆者の標本庫に保管してある。

※文章当時「和名ミヤマハナシノブ」として整理されていましたが、現在では「和名エゾノハナシノブ」に修正されています。

リシリシノブ(イノモトソウ科)

シコタンソウ(ユキノシタ科)

アオモリマンテマ(ナデシコ科)

ミヤママンネングサ(ベンケイソウ科)

エゾオヤマリンドウ(リンドウ科)

エゾノハナシノブ(ハナシノブ科)